

令和 5 年度卒業研究発表会要旨の巻頭にあたって

氷見 和裕 (筑波大学 生物学類 4 年)

僕は、昨年度の卒業研究発表準備委員会で、総括を務めました。すると、いつの間にか今年度の卒業研究発表準備委員会の代表になっていました。なんと、3 年生の時に代表を務めると自動的に 4 年生で代表になる、という仕組みだそうです。それを知ったときは、本当にびっくりしました。きっと去年も言われたのだと思いますが、まったく記憶に残っていませんでした。でも代表として、僕が巻頭言を書きます。ちなみに、つくば生物ジャーナル 1 月号の巻頭に書く、卒業研究ではない文章を、準備委員会では「巻頭言」と呼んでいます。

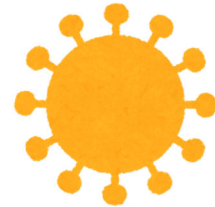
僕が筑波大学に入学した 2020 年度は、ちょうどコロナ禍が開始した直後でした。当時の世の中は、新型コロナウイルスの出現により大パニックになっていました。その影響で、残念なことに僕の高校と塾の卒業祝賀会が消滅してしまいました。入学後の筑波大学では、多くの授業がオンライン化し、例えば生物学類の基礎生物学実験の名物「ザ・タンポポ」が、送られてきたデータを使ってグラフを描くだけの授業になりました。僕たちはオンライン授業に備えてノートパソコンを購入し、Zoom や Microsoft Teams の使い方を学びました。なおこのとき僕は、せっかくだからとゲーミング PC を購入し、PC ゲームに本格参入しました。それはともかくとして、筑波大学の学園祭である雙峰祭が消滅してしまったそば！ 悲しいそば… (そばたんの声)。

2 年次 (2021 年度) になっても、コロナは終わりませんでした。せっかく生物学類の専門科目・実験・実習を選択できるようなったのに、コロナ禍のせいで、実習内容が縮小してしまいました。例えば植物分類学臨海実習では、本来下田臨海実験センターに宿泊するはずなのに、その年は筑波大学日帰り×5 日間に変わってしまったのです。でも 3 年次 (2022 年度) になると、ようやく対面授業が増えてきました。この年に履修した菌類分類学野外実習では、例年通り菅平高原実験センターに宿泊できました。そして 4 年次 (2023 年度) になると、ついに雙峰祭も完全復活して、活気を取り戻したそば！ 雙峰祭の日には、筑波大学の屋内も野外も、人々であふれかえっていたそば。僕は、お客様にそばたん体験 (塗り絵、プラバン、クイズ) を提供する企画団体「そばっちゃん」の一員になりました。本来なら、1 年生の時からこうして雙峰祭に参加できたはずなのに、コロナ禍のせいでなかなか参加できなかったと思うと悲しいです。

このように、僕たちの世代はこの 4 年間のほとんどの期間、コロナ禍と戦い続けてきました。しかし！ その戦いの末、何とか卒業研究にまでたどり着くことができました。発表会では、専門分野が多岐にわたるため、中にはまったく理解できない研究もあるかもしれませんが、それでも、せめて自分が興味のある研究だけでも、見て、聞いて、そしてどしどし質問してください。質問を受けることは、僕たち 4 年生にとって、とても勉強になります。また、今年度の卒業研究発表会が終わった後は、ついに慰労会が解禁します。慰労会とは、卒業していく 4 年生達をねぎらいながら、ごちそうを食べる会です。コロナ禍で一時期消滅していま

したが、今年度、ようやく帰ってきました。卒業研究発表会が終わったら、ぜひ慰労会で歓談しましょう。

Communicated by Kazuharu Ohashi, Received December 26, 2023.



いらすとや より



そばたん

雙峰祭は大学生活の大事な 1 ページそば。そばも生物学類の魂であるキャンベル生物学を読んでみるそば。